

■ Tsuda Masashi 津田 正史

MEXT (科研費)

1. アンフィジニウム属渦鞭毛藻の有用二次代謝産物の探索と開発 (代表:津田正史) 基盤研究(B), 令和3~6年度, 3,200千円

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Joint Research (共同研究)]

1. 17O MRIによる薬効評価システム開発, (代表:津田正史), 株式会社Spectro Decypher, 6,000千円(間接経費を含む).
2. 質量分析による海洋性貝毒と渦鞭毛藻ポリケチドの化学構造解析, (代表:津田正史), 基盤共同研究, 物質・デバイス領域共同研究拠点(九州大学先端物質科学研究所), 150千円
3. 渦鞭毛藻と貝類から新規医薬リード分子の探索研究, (代表:津田正史), 基盤共同研究, 物質・デバイス領域共同研究拠点(大阪大学産業科学研究所), 150千円

[Fund within the University (学内プロジェクト経費)]

1. 臍帯血再生医療」と「光線医療」の革新的医療の確立と融合(代表:井上 啓史), 基幹研究プロジェクト, 令和6年度, 500千円.

Journal Publications (論文)

1. Obana, T., Nakajima, M., Nakazato, K., Nakagawa, H., Murata, K., Tsuda, M., Fuwa, H., Iriomoteolide-1a and -1b: structure elucidation by integrating NMR spectroscopic analysis, theoretical calculation, and total synthesis, J. Am. Chem. Soc., 146, 29836–29846 (2024).

Conference Presentations (学会・講演会発表)

Domestic:

1. 尾花知紘, 中島美結, 中里一貴, 中川颯人, 村田佳亮, 津田正史, 不破春彦, イリオモテオリド-1a の全合成研究: 側鎖の不斉中心の立体配置, 日本化学会第 104 春期年会, 船橋 (2024/3/18-21)
2. 津田正史, 津田雅之, 中山登, 中岡溪, 中岡茂, 低濃縮酸素-17 ガス吸入によるマウスの脳内酸素代謝観測, 第 52 回核磁気共鳴医学会大会, 千葉 (2024/9/20-22)
3. 中島美結, 尾花知紘, 中里一貴, 中川颯人, 村田佳亮, 津田正史, 不破春彦, イリオモテオリド-1a および-1b の全合成と全立体配置決定, 第 125 回有機合成シンポジウム, 東京 (2024/11/7-8) 優秀発表賞

Other Details (その他)

[News Article (報道記事)] ニュース「西表島近海の生物が持つ抗がん作用のある天然化合物の合成に成功 中央大と高知大」, JST Science Portal 2024/12/24

MEXT (科研費)

1. ゲノム情報から解き明かす古代湖・琵琶湖におけるカワニナ類の多様化 (代表: 三浦収), 基盤研究(B), 令和5年度～令和9年度, 3,200千円.
2. 社会があれば知性はあるか: 甲殻類・水圏無脊椎動物の社会と認知能力を捉え直す (代表: 安田千晶), 学術変革領域研究(B), 令和5年度～令和7年度, 1,880千円.

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Joint Research (共同研究)]

1. 干潟底生動物の多様性と食物網 (代表: 金谷弦), 環境研究総合推進費, 令和6年度～令和10年度, 500千円.

Journal Publications (論文)

1. Hamazaki, K. and Miura, O. Highly biased sex ratios in the twelve species of the freshwater snail genus *Semisulcospira* in and around Lake Biwa. *Journal of Molluscan Studies* 90, eyae011 (2024).
2. Miura, O. and Takisawa, S. Biogeography of larval trematodes in the freshwater snail, *Semisulcospira libertina*: a comparison of the morphological and molecular approaches. *Parasitology International* 102, 102924 (2024).
3. Sawada, N., Fuke, Y., Miura, O., Toyohara, H. and Nakano, T. Redescription of *Semisulcospira reticulata* (Mollusca, Semisulcospiridae) with description of a new species from Lake Biwa, Japan. *Evolutionary Systematics* 8, 127-144 (2024).
4. Ueno, K., Urabe, M., Nakai, K. and Miura, O. Genomic evidence of reproductive isolation among the *Semisulcospira* snails radiated in the ancient Lake Biwa. *Journal of Evolutionary Biology* 37, 1055-1063 (2024).
5. Sawada, N., Fuke, Y. and Miura, O. Integrative taxonomy of *Semisulcospira kurodai* (Mollusca, Semisulcospiridae) with insights into its geographic variation and description of three new species from Japan. *Systematics and Biodiversity* 23, 2436684 (2025).

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

1. Miura, O., Social organization of trematodes in marine and freshwater snails, The 5th Asian Marine Biology Symposium, Bangkok, Thailand (2024/10/27-30).
2. Jaspe B. T., Miura, O., Analyzing latitudinal diversity gradients in marine benthos: insight from Japan coasts, The 5th Asian Marine Biology Symposium, Bangkok, Thailand (2024/10/27-30).
3. Bradecina, S. R. B., Miura, O., Influence of trematode parasitism on *Batillaria multiformis* distribution in the intertidal habitat, The 5th Asian Marine Biology Symposium, Bangkok, Thailand (2024/10/27-30).

Domestic:

1. 三浦収, 琵琶湖に生息するカワニナ類の多様化の歴史とメカニズム, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 松江 (2024/9/13-15).
2. 濱崎寛太, 三浦収, カワニナ属に見られる特徴的な性比の要因を探る, 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 松江 (2024/9/13-15).

■ Teramoto Maki 寺本 真紀

Any Other Funds（その他の研究経費）

[Consigned Research（受託研究）]

1. 【地域共創分野】リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点（代表:田中 浩也）, JST, 共創の場形成支援プログラム 本格型, 令和5年度~令和14年度, 3000千円.

[Scholarship Donations（奨学寄附金）]

1. 奨学寄附金, (株)ブリヂストン, 300千円.

Books（著書）

1. 寺本真紀, 海洋深層水から見つかったポリプロピレン分解細菌, バイオサイエンスとインダストリー (B&I) 誌, vol.82 (6), p 574-575 (2024/11)

Conference Presentations（学会・講演会発表）

Domestic:

1. 寺本真紀, 石油やプラスチックを食べて海をきれいにする微生物の話, 第11回高分子学会グリーンケミストリー研究会(GC)シンポジウム, 第25回プラスチックリサイクル化学研究会(FSRJ)研究討論会 合同発表会, 東葛テクノプラザ(千葉県柏市) (2024/8/7) 招待講演.

Other Details（その他）

[News Article（報道記事）] 微生物でプラスチックごみ解決へ 産業利用へ「可能性の宝庫」 高知大学農林海洋科学部・寺本真紀准教授—研究最前線 高知新聞 (2024/11/26)

[Others（その他）]

1. 慶應義塾大学大学院にて特別講義, 1件, (2024/7/2)
2. 国際学術論文 review 審査, 3件
3. 科研費審査
4. 高校の研究相談を受ける, 1件, (2024/9)
5. 企業の研究相談を受ける, 2件, (2024/2 及び 12)
6. 深海からの新規カロテノイドの構造決定 (代表:寺本真紀), 文部科学省, 「先端研究基盤共用促進事業」NMR プラットフォーム, 令和5年度~令和6年度.

■ Sakurai Tetsuya 櫻井 哲也

MEXT (科研費)

1. ゲノム情報から解き明かす古代湖・琵琶湖におけるカワニナ類の多様化 (代表: 三浦収) 基盤研究(B), 令和5年度～9年度, 18,720千円. 分担: 600千円
2. ゲノム解析から解き明かす共生細菌によるミナミアオノリの成長促進作用の解明 (代表: 難波卓司) 基盤研究(C), 令和6年度～8年度, 4,680千円. 分担: 150千円

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Fund within the University (学内プロジェクト経費)]

1. 新領域「ファイコミクス」による藻類の新価値創造(代表: 長崎慶三), 第4期基幹研究プロジェクト, 令和4年度～9年度, 90,000千円. 分担: 680千円

Conference Presentations (学会・講演会発表)

Domestic:

1. 圓山恭之進, 辻本泰弘, 櫻井哲也, 坂井寛章, 坂本真吾, 光田展隆, ガーナ北部ボルタ川流域の低硫黄土壌を用いたイネの分子応答の研究, 第 65 回日本植物生理学会年会, 神戸 (2024/3/17-19)

Other Details (その他)

[Committee Activity outside the cluster (部門選出の全学委員)]

1. 総合科学系情報セキュリティ委員

[Others (その他)]

1. 国立研究開発法人 理化学研究所 環境資源科学研究センター 客員主管研究員 (2017.4-)

MEXT (科研費)

1. ウミガメ孵化幼体の表現型に孵卵条件が及ぼす影響と機構を解明して保護活動に寄与する(代表: 齊藤知己) 基盤研究 (C), 令和5年度~7年度, 2,900千円. 代表: 今年度獲得直接経費(400千円)
2. 琉球列島の洞窟水圏環境における生物多様性の解明(代表: 藤田喜久) 基盤研究 (B), 令和2年度~4年度, 13,500 千円 分担: 今年度獲得直接経費(100千円)

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Joint Research (共同研究)]

1. Unraveling the mysteries of North Pacific loggerhead sea turtle migrations (代表: Crowder, L.B.), The Gordon and Betty Moore Foundation, 2022~2026, US\$2,000,000. 分担: 今年度獲得直接経費(\$12,000)

[Scholarship Donations (奨学寄附金)]

1. 砂浜に生息するスナガニ類の分布生態に与える人為的影響について(代表: 福塚理佐子), 2024年度笹川科学研究助成, 580千円.
2. 飼育と遺伝学的解析を併用した幼生研究手法の開発: オトヒメエビ類の適応進化を紐解く(代表: 中川幹大), 2024年度黒潮生物研究所研究助成, 200千円.

[Fund within the University (学内プロジェクト経費)]

1. 海洋立県・高知のウェルビーイングに資する海洋DX人材育成と海洋新産業創発への機能整備(代表: 岡村慶), 学長裁量経費, 令和6年度, 1300千円.

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

1. Crowder, L.B., Briscoe, D.K., Balazs, G.H., Polovina, J.J., Seminoff, J.A., Abreu-Grobois, A., Kurita, M., Mori, M., Parker, D.M., Rice, M.R., Saito, T., Santos, B.S., Turner-Tomaszewicz, C.N., Yamaguchi, N., Testing the Thermal Corridor Hypothesis: Does El Nino warming of the NE Pacific allow Japanese Loggerheads to go to Mexico? ISTS 42th Annual Symposium on Sea Turtle Biology and Conservation, Pattaya, Thailand (2024/3/24-29).
2. Briscoe, D.K., Crowder, L.B., Balazs, G.H., Seminoff, J.A., Abreu-Grobois, A., Kurita, M., Mori, M., Parker, D.M., Rice, M.R., Saito, T., Santos, B.S., Turner-Tomaszewicz, C.N., Yamaguchi, N., Polovina, J.J., Multi-decade northward shift of loggerhead sea turtle pelagic habitat as the eastern North Pacific Transition zone becomes more oligotrophic. ICES 2024, Honolulu, HI, USA (2024/10/26-11/1).
3. Yamaguchi, N., Saito, T., The status of the loggerhead turtle nesting and coastal environment on Kochi Beach. 17th Kuroshio Science International Symposium

(2024). Kochi, Japan (2024/11/4-6).

4. Nakagawa, M., Saito, T., Larval development of the deep-sea sponge-associated shrimp, *Spongicola venustus* (Decapoda: Spongicolidae), documented for the first time in 150 years. 17th Kuroshio Science International Symposium (2024). Kochi, Japan (2024/11/4-6).
5. Crowder, L.B., Briscoe, D.K., Balazs, G.H., Polovina, J.J., Seminoff, J.A., Abreu-Grobois, A., Lee Hing, C.A., Kurita, M., Mori, M., Parker, D.M., Rice, M.R., Saito, T., Santos, B.S., Turner-Tomaszewicz, C.N., Yamaguchi, N., Unraveling the migratory mysteries of North Pacific loggerheads using experimental oceanography. 2nd West Coast Sea Turtle Symposium, Chula Vista, California USA (2024/11/5-7).

Domestic:

1. 山口永晏, 齊藤知己, 高知海岸におけるアカウミガメの上陸産卵と砂浜環境の現状, 第 63 回日本爬虫両生類学会姫路大会, 兵庫県立大学 (2024/11/2-3).
2. 中川幹大, 齊藤知己, 飼育下で観察されたドウケツエビの幼生発生およびプレジエアの行動, 第 62 回日本甲殻類学会函館大会, 北海道大学函館キャンパス (2024/11/30-12/1).
3. 山口永晏, 齊藤知己, 2023 年晩夏に高知県近海に來遊したアカウミガメ成体雌 2 個体の秋冬季における回遊経路, 第 35 回日本ウミガメ会議(宮崎大会) (2024/12/13-15).
4. 山口永晏, 齊藤知己, サーマルドローンをを用いたアカウミガメ産卵個体の探索と有効性の検討, 第 35 回日本ウミガメ会議(宮崎大会) (2024/12/13-15).
5. 久保桃花, 真栄田賢, 水落夏帆, 荻野寧々, 平野和己, 笹井隆秀, 芦田裕史, 山崎啓, 河津勲, 森昌範, 栗田正徳, 齊藤知己, 飼育下で繁殖したウミガメ類孵化幼体の産卵回によるサイズおよび運動性の変化, 第 35 回日本ウミガメ会議(宮崎大会) (2024/12/13-15).
6. 池田ひなた, 久保桃花, 横井瞳, 齊藤知己, 高知海岸におけるウミガメ卵漂着と上陸可能な波高の検討, 第 35 回日本ウミガメ会議(宮崎大会) (2024/12/13-15).
7. 齊藤知己, 山口永晏, 池田ひなた, 久保桃花, 松田日那, 横井瞳, 若松園子, 友成実生子, 向後蓮太郎, 芦田泉香子, 高田光紀, 小坂將, 三宅香成, 藤本竜平, 和田真央子, 2009-2024 年 高知海岸でのアカウミガメの上陸産卵と海洋環境, 高知大学設立 75 周年記念シンポジウム, かるぼーと, 高知市 (2024/9/28).
8. 山口永晏, 齊藤知己, 高知海岸におけるアカウミガメの産卵地環境調査, 高知大学設立 75 周年記念シンポジウム, かるぼーと, 高知市 (2024/9/28).
9. 中川幹大, 齊藤知己, 約 150 年ぶりとなる深海の稀種ドウケツエビ (*Spongicola venustus*) の幼生発生, 高知大学設立 75 周年記念シンポジウム, かるぼーと, 高知市 (2024/9/28).
10. 福塚理佐子, 齊藤知己, 砂浜におけるスナガニ類の分布生態に影響を与える要因について, 高知大学設立 75 周年記念シンポジウム, かるぼーと, 高知市 (2024/9/28).
11. 岡村慶, 野口拓郎, 平岡雅規, 齊藤知己, 海洋立県・高知のウェルビーイングに資する海洋 DX 人材育成と海洋新産業創発への機能整備, 高知大学設立 75 周年記念シンポジウム, かるぼーと, 高知市 (2024/9/28).
12. 平賀洋之, 中川幹大, 有海悠作, 齊藤知己, 高知県仁淀川河口前面海域におけるテナガエビ属幼生の出現. 2024 年度稚魚研究会, 広島オフィスセンター, 広島市 (2024/12/7-8).
13. 中川幹大, 齊藤知己, 飼育下で観察されたドウケツエビ

- の幼生発生およびプレゾエアの形態と行動, 第 116 回土佐生物学会, 高知大学, 高知市 (2024/12/21).
14. 池田ひなた, 久保桃花, 横井瞳, 斉藤知己, 高知海岸におけるウミガメ卵の漂着と上陸可能な波高の検討, 第 116 回土佐生物学会, 高知大学, 高知市 (2024/12/21).
 15. 山口永晏, 斉藤知己, サーマルドローンを用いたアカウミガメ産卵個体の探索と有効性の検討, 第 116 回土佐生物学会, 高知大学, 高知市 (2024/12/21).
 16. 松田日那, 斉藤知己, 孵卵温度の日内変動がアカウミガメの胚発生時の卵黄吸収に与える影響, 第 116 回土佐生物学会, 高知大学, 高知市 (2024/12/21).
 17. 久保桃花, 真栄田賢, 水落夏帆, 荻野寧々, 平野和己, 笹井隆秀, 芦田裕史, 山崎啓, 河津勲, 森昌範, 栗田正徳, 斉藤知己, 飼育下で繁殖したウミガメ類孵化幼体の産卵回によるサイズおよび運動性の変化, 第 116 回土佐生物学会, 高知大学, 高知市 (2024/12/21).
 18. 有海悠作, 斉藤知己, 仁淀川河口沖におけるシャコ類幼生相とその季節的変動, 第 116 回土佐生物学会, 高知大学, 高知市 (2024/12/21).
 19. 福塚理佐子・斉藤知己, 砂浜におけるスナガニ類の分布生態に影響を与える人為的要因について. 第 116 回土佐生物学会, 高知大学, 高知市 (2024/12/21).
 16. 読売新聞, 朝日新聞, NHK 「春野西小学校でウミガメ学習会」 取材協力 (2024/9/17).
 17. NHK E テレ, 地球ドラマチック「水辺のヒーロー！ビーバー」, 監修 (2024/11/16).
 18. NHK E テレ, 地球ドラマチック「スコットランドの大自然～Ep3」, 部分監修 (2024/12/7).
 19. NHK E テレ, 地球ドラマチック「寒さもへっちゃら動物図鑑」, 部分監修 (2024/12/21).

【Outside Comittee（学外委員）】

1. 安芸市立学校給食センター運営委員会アドバイザー
2. むろと廃校水族館顧問
3. 日本ウミガメ協議会理事
4. 高知県希少野生動植物保護専門員
5. 高知県野生生物分布調査有識者会議委員
6. 環境省希少野生動植物種保存推進員
7. 高知県生物多様性こうち戦略推進リーダー
8. IUCN-SSC, Marine Turtle Specialist Group, member
9. 日本動物分類学会若手論文賞候補者選考委員会委員長
10. 日本動物分類学会英文誌 Species Diversity, 編集委員長 Editor-in-Chief

Other Details（その他）

【News Article（報道記事）】

1. NHK E テレ, 地球ドラマチック「生命(いのち)の躍動 太陽をめぐる地球の1年 総集編」, 部分監修 (2024/1/6).
2. NHK E テレ, 地球ドラマチック「生命(いのち)の躍動 太陽をめぐる地球の1年 人物編」, 部分監修 (2024/1/13).
3. NHK E テレ, 地球ドラマチック「大迫力！ナイアガラの滝～生き物たちの四季～」, 部分監修 (2024/3/16).
4. NHK ニュース「高知大学 調査実習船が老朽化で43年ぶりに新しく 出港式」 取材協力 2024.4.5
5. 高知新聞「高知大が43年ぶり新海洋船 豊旗丸が出発式、深い海域で調査へ」 取材協力 (2024/4/6).
6. NHK E テレ, 地球ドラマチック「友情って何?」, 部分監修 (2024/4/13).
7. NHK E テレ, 地球ドラマチック「スコットランドの大自然～野性と共に生きる～」, 部分監修 (2024/4/20).
8. 高知新聞「アカウミガメ産卵確認 高知市の海岸 県内で今季初」 取材協力 (2024/5/11).
9. NHK E テレ, 地球ドラマチック「野生の母親たち」, 部分監修 (2024/5/11).
10. 高知新聞, 所感雑感「放流 13 年 ウミガメが見せた野生」, 執筆 (2024/5/14).
11. NHK ニュース 「高知海岸ウミガメ協議会開催」(ほか 2 件 高知放送, RKC 高知) 取材協力 (2024/6/6).
12. テレビ高知 からふる「ウミガメが上陸する景色守りたい 高知大学の学生らが朝早くから調査中」 取材協力 (2024/7/18).
13. NHK E テレ, 地球ドラマチック「スコットランドの大自然～島々と海の生き物たち～Ep2」, 部分監修 (2024/7/20).
14. 読売新聞高知版・オンライン版「エラブウミヘビに注意 ハブ毒の 80 倍、県内目撃相次ぐ」, 取材協力 (2024/8/1).
15. テレビ高知 からふる 「ウミガメの産卵がみられなくなる!? 全国有数の産卵地を守ろうと学生たちが奮闘！」 取材協力 (2024/9/17).

【Regional Contribution（地域貢献活動）】

1. 高知市立春野西小学校, 総合学習「環境・防災学習・ウミガメ学習会第1部」, 参加者 28 名, 講師その他協力, 高知市 (2024/7/8).
2. 高知市立春野東小学校, 総合学習「環境・防災学習・ウミガメ学習会第1部」, 参加者 70 名, 講師その他協力, 高知市 (2024/7/10).
3. 高知いきもの調査隊セミナー, 「ウミガメのお話」, 参加者 20 名, 講師, 高知市 (2024/8/24).
4. 高知市立春野西小学校, 総合学習「環境・防災学習・ウミガメ学習会第2部」, 参加者 30 名, 講師その他協力, 高知市 (2024/9/17).
5. 高知市立春野東小学校, 総合学習「環境・防災学習・ウミガメ学習会第2部」, 参加者 140 名, 講師その他協力, 土佐市 (2024/9/25).
6. 国土交通省高知海岸事務所 海岸設置用看板, 内容監修 (2024/10/7).
7. 高知県うみがめ保護活動情報交換会, 参加者 40 名, 企画・協力, いの町 (2024/11/22).
8. 高知市立春野西小学校, 総合学習「環境・防災学習・ウミガメ学習会第3部」, 参加者 36 名, 講師その他協力, 土佐市 (2024/11/28).

MEXT (科研費)

1. ゲノム解析から解き明かす共生細菌によるミナミアオノリの成長促進作用の解明 (代表:難波 卓司), 基盤研究(C), 令和6年度～令和8年度, 2,000千円.

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Consigned Research (受託研究)]

1. お腹の健康を保つ機能性海藻素材による健康食品の開発 (代表:難波卓司), JST, 可能性検証, 4,000千円.
2. しまんと海藻エコイノベーション拠点 (代表:平岡雅規) 令和6年度～令和7年度, 50,000千円. 分担: 1,300千円

[Joint Research (共同研究)]

1. 新規化粧品材料の研究開発 (代表:難波卓司), (株)丸善製薬, 600千円 (間接経費を含む).
2. 藻類の新たな生理作用の探索 (代表: 難波卓司), (株)sunlife, 600千円 (間接経費を含む).
3. 藻類抽出物の解析 (代表:難波卓司), (株)DIC, 600千円 (間接経費を含む).
4. 海藻成分の機能性探索 (代表:難波卓司), (株)理研食品, サンシキ 400千円 (間接経費を含む).

[Fund within the University (学内プロジェクト経費)]

1. ファイコミクス (代表:長崎慶三), 基幹研究, 分担:544千円

Journal Publications (論文)

1. Kageyama S, Maejima Y, Morioka Y, Escareal ZAKB, Sato Y, Namba T. Neferine Attenuates Aging-Related Liver Dysfunction by Suppressing Cellular Aging via Mitochondrial Reactivation. Biol Pharm Bull. 47:1953-1960. (2024)

Patents (特許)

1. 難波卓司, 平岡雅規, 恩田歩武. 多糖の製造方法, 特願 2024-148118.
2. 難波卓司, 恩田歩武. 臓器障害改善剤, PCT/JP2024/020109

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

1. Yuka Maejima, Takushi Namba. Ulva meridionalis-derived polysaccharides activate the β -catenin pathway in intestinal epithelial cells. the 17th International Kuroshio Science Symposium, Kochi. (2024/11/4-5)

Domestic:

1. 難波卓司(招待公演), アオノリで地球を救う. フードテック官民協議会「未来を拓くフードテックの挑戦」(2024/9/17) 東京
2. 前島由佳,難波卓司, スピルリナ熱水抽出物による Nrf2 活性化機構の解明, 第 57 回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会, 岡山. (2024/11/16-17)
3. 前島由佳,難波卓司, ミナミアオノリ由来多糖が低下した腸管バリア機能を回復するメカニズムの解明, 第 47 回日本分子生物学会年会, 福岡. (2024/11/27-29)

■ Ulanova Dana ウラノバ ダナ

MEXT (科研費)

1. 海洋酸性化を生き抜く有孔虫の動態的な石炭化の解明
(代表:氏家 由利香)基盤研究(B), 令和 5 年度～令和 7
年度, 400 千円

Any Other Funds (その他の研究経費)

[Donation (寄付金)]

1. 「微生物の会話」を分子レベルで解読し天然化合物探索
に役立てる (代表:ウラノバ ダナ), 公益財団法人稲盛
財団 , 1000千円
2. 海洋細菌の新規生理活性物質生産を志向したゲノム微
生物学研究・教育基盤の確立 (代表:小谷 真也), 発
酵研究所, 4000千円

Conference Presentations (学会・講演会発表)

International:

1. Homareda, J, Ulanova D, Effect of phosphite-utilizing
bacteria on the growth of other bacteria, 17th Kuroshio
Science International Symposium, Kochi (2024/11/4-6)
2. Hirano A, Ulanova D, Regulation of Bioactive Compound
Production in Co-cultures of Marine Bacteria, 17th
Kuroshio Science International Symposium, Kochi
(2024/11/4-6)

Domestic:

1. Homareda J, Ulanova D., Differences in the growth of
phosphite-utilizing bacteria, JSBBA KANSAI 11th Student
Forum, Kobe, (2024/10/27)
2. Hirano A, Ulanova D., Elucidation of the antimicrobial
activity suppression in co-cultures of marine bacteria,
JSBBA KANSAI 11th Student Forum, Kobe (2024/10/27)

■ Onodera Ken-ichi 小野寺 健一

MEXT（科研費）

1. 海洋アルカロイドの起源解明法確率研究（代表:小野寺健一）基盤研究(C), 令和元年度～令和6年度, 0円(延長).

Other Details（その他）

【Outside Comittee（学外委員）】

1. 日本農芸化学会 中四国支部 支部参与

【Others（その他）】

1. 深海からの新規カロテノイドの構造決定 (代表:寺本真紀; 分担), 文部科学省, 「先端研究基盤共用促進事業」NMR プラットフォーム, 令和5年度～令和6年度.